

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野 世界と日本の地域構成	6	世界の地域構成を取り上げ、位置や分布などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解できる。 (2) 世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。	・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。 ・我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。	・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界と日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
地理的分野 人々の生活と環境	4	場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることようにする。 (1) 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解できる。 (2) 世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解できる。その際、世界の主な宗教の分布についても理解できる。 (3) 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。	・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ・世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。	・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界各地の人々の生活と環境について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
地理的分野 世界の諸地域	24	各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 地球的課題は、それが見られる地域の地的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解できる。 (2) 各州で暮らす人々の生活を基に、地的特色を大観し理解できる。 (3) 各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。	・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地的特色を大観し理解している。	・世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
地理的分野 地域調査のしかた	4	場所などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解できる。 (2) 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けるようにする。 (3) 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現できる。	・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身につけている。	・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。	・地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
歴史的分野 歴史のとらえ方・調べ方	4	・小学校で学習した歴史上の人物や文化財についての振り返りの活動などを通じて、時代の特色や歴史の移り変わりへの興味・関心を高める。 ・年代区分の方法や年代の表し方について理解し、年表の見方・表し方を身に付ける。	・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ・資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、収集した情報を年表などにまとめたりする技能を身につけている。	・時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。	・私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
歴史的分野 原始・古代の日本と世界	25	・人類が出現し、やがて世界各地で古代文明がおこったことや、宗教が起こったことを理解する。 ・それぞれの古代文明には、農耕や牧畜を基盤にして築かれたこと、文字の使用、国家がおこったことなど、共通する特色があることを理解する。 ・日本列島で狩猟・採集を営んでいた人々の暮らしについて考える。 ・日本列島で農耕の人々による人々の生活の変化に気づき、国家が形成されていく過程のあらましを東アジアとの関わりを通して理解する。 ・7～8世紀の世界では、東西に大帝国が成立し、シルクロードを通じた国際交流が盛んになったことを理解する。 ・日本では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら、国家のしくみが整えられたことを理解する。 ・天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展していったことを理解する。 ・国際的な要素を持った文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解する。	・世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ・日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。 ・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ・仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文明が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。	・古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	・古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

歴史的分野 中世の日本 と世界	17	・武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配がしだいに全国に広まったことを理解する。 ・武士や民衆の活力を背景に生まれた新たな社会や文化の特色について考える。 ・13世紀ごろの世界では、ユーラシア大陸に広がるモンゴル帝国(元)が成立し、東西の貿易や文化交流が盛んになったことを理解する。 ・南北朝の争乱や室町幕府の成立について、東アジア世界との密接な関わりとともに理解する。 ・応仁の乱後の社会的な変動や戦国の動乱などから、武家政治の展開について理解する。 ・農業などの諸産業が発展し、畿内を中心とした都市や農村に自治的なしくみが成立したことを理解するとともに、室町文化には禅宗の影響や現在との結びつきがみられることに気づく。	・鎌倉幕府の成立、元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解している。 ・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
歴史的分野 近世の日本 と世界	21	・14～16世紀のヨーロッパでは、ルネサンスや宗教改革、アジアへの新航路の開拓などの動きがおこり、ヨーロッパ諸国が貿易や不況などを目的に世界各地へ進出していったことを理解する。 ・ヨーロッパ人が日本に来航した背景や目的を理解し、それが日本の社会に及ぼした影響について考える。 ・織田信長・豊臣秀吉による全国の統一事業や、朝鮮半島への出兵などの対外関係についてとらえ、近世社会の基礎がつくられていったことを理解する。 ・海外から南蛮文化などが取り入れられる一方で、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪壮・華麗な文化が生まみ出されたことに気づく。 ・江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策と鎖国下の対外関係、身分制度の確立と農村の様子をとらえ、幕府の政治の特色について考える。 ・江戸幕府により、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 ・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりについてとらえ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ・貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化、江戸幕府の政治改革について理解するとともに、新しい学問・思想の動きに気づく。	・ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解している。 ・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。	・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	・近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。